



株式会社小田急ランドフローラ
造園事業部 様

小田急グループの管理システムともマッチ! マーケティング活用できる攻めのシステムに

小田急線沿線に展開するフラワーショップ「小田急フローリスト」の運営など、園芸事業とともに主に小田急グループがデベロップメントする戸建住宅・商業施設・ホテルなどの造園・土木工事を担う株式会社小田急ランドフローラ。

ここ数年で数々の課題が浮上し、建設業に特化した原価管理ソフトの導入が検討された。導入の決め手と運用後の効果について、造園事業部長の興津幸宏氏に伺ってみた。



株式会社小田急ランドフローラ
造園事業部長 興津幸宏 氏

株式会社アイキューブ
代表取締役 山本武史

－導入前の問題点－

- Excelでの個別データ作成では各種諸表の整合性に難あり
- 本社⇄営業所間のデータ変更が即時反映されない
- 600現場の労災処理には3日間
- 月次集計業務には1週間と膨大な業務量



－導入後の変化－

- パッケージ導入で諸表間のデータ整合性が実現
- サーバーを介して拠点間のデータ変更もリアルタイムに同期
- 労災処理は3日間からワンボタン、月次集計は1週間から1日と大幅な業務短縮！
- 総務、ファイナンシャルなど、経営に直結するデータ活用が可能に！

小田急ランドフローラ様 導入システム

- 見積本家 10ライセンス
 - 予算入力キット 10ライセンス
 - 入力支払本家 10ライセンス
- <ダントツオプション>
労災メール、メール通知、EBデータ作成、請求書発行

エクセルでは限界を感じ、パッケージ導入を

発注書（実行予算書）、注文書、支払調書などを、それぞれ個別のエクセルファイルで作成していた小田急ランドフローラ。それぞれ独立したデータのため、集計や検算等にマンパワーを要し、すでに数年前からエクセルでの管理の見直しが始まっていた。

興津氏：エクセルファイルでの原価処理に限界を感じるようになったのは、近年になってますます工事が細分化され、年間の工事件数が増大してきたからです。それぞれ独立したデータでの諸表管理では数字の突合や集計業務での検算等、人力による作業が相当数発生します。また、本社と営業所で共有する書類も数多くあり、いずれかの拠点で変更があった場合、マニュアルでの整合を行わなければいけないなど、エクセル管理ではマンパワー的な限界に達していました。

そこで、同社では原価管理ソフトの導入を本格化すべく、2011年4月に総務・業務・工事などの各課からなる約10名の社内プロジェクトを立ち上げ、電鉄本社IT推進部とも調整を図りながらシステム選定に着手した。

興津氏：導入に向けた各種検討では、“既存の業務フローをあまり変えることなく問題点を改善してくれるソフト”であることを第一におきましたが、運用後には“数値の整合性だけでなく、その数値を業務に活用できるソフト”ということを念頭に検討しました。「アイキューブ本家シリーズ」とともに最終的な候補として残ったもう一つのソフトと比較して、プロジェクトメンバーによるアンケートも集計しました。

株式会社小田急ランドフローラ
造園事業部 様

さまざまな点で高評価、予想以上の効果

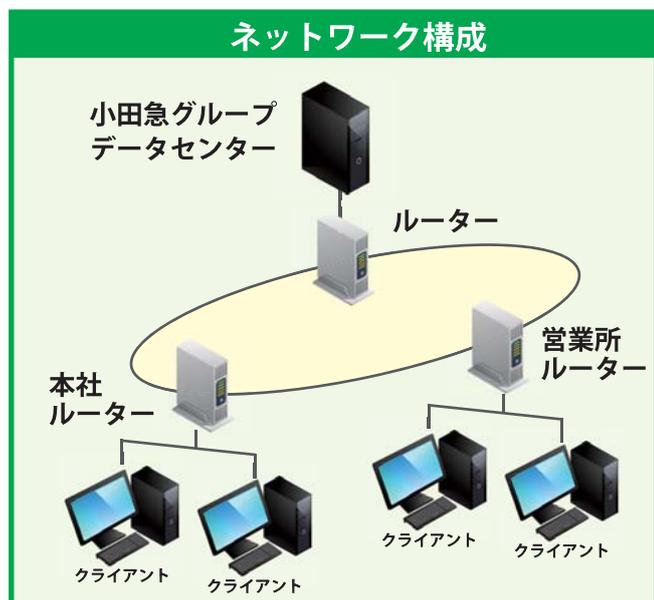
各5点満点・9項目からなるアンケートの結果は、「使いやすさ・分かりやすさ」「柔軟性・汎用性・カスタマイズ性」「帳票の使いやすさ」「ペーパーレス性」「各課との連携」の7項目で競合ソフトを大きく上回る評価を獲得。

同社の複雑な業務フローに対応しながら、さまざまな効果を発揮すると検証されて2011年7月に導入が決定された。各種機器設定やシステムインストール、動作確認などがクリアされた後、2012年2月より社員トレーニングも兼ねて「アイキューブ本家シリーズ」への入力開始。正式運用は同年4月からスタートした。

興津氏：アイキューブには導入まで、当社業務の内容や課題をスムーズに行っていたいただき、問題解決においても真摯に対応いただきました。また、導入後のサポートも素早く的確で助かっています。本ソフト導入後の効果は予想以上のものがあります。

まずはリアルタイムでの同期性。たとえば、支払調書の契約金額を上書きすれば発注書も同時に上書きされます。これは、本社、営業所のいずれの拠点で行っても双方で即時反映されますので、総務やフィナンシャルから長年指摘されていた課題が改善されました。

また、これまでエクセルの確定金額を元にファイルメーカーで発行していた注文書などは「アイキューブ本家シリーズ」導入後は、1回の入力で発行されます。担当者の時間短縮はもちろん、ケアレスミス的大幅低減にもなりました。



オプションで追加した労災処理機能の効果も非常に大きなものがあります。これまで、月次集計、労災提出資料ともエクセルで行っており、通常3日程度かかっていた作業が「アイキューブ本家シリーズ」ではボタン一つの処理で済むようになりました。その他、履歴参照の容易さなど業務効率アップに果たしている効果を数え上げたらキリがありません。決算期の集計作業も1週間程度かかっていたものが、一両日で完了し、正確性もアップしています。

管理から営業企画へと使う人の視点を変えた

「アイキューブ本家シリーズ」の導入・運用で、処理速度のアップや人為的ミスの削減などによる業務効率化は果たすことができた小田急ランドフローラ。ただし、こうした効果は当初の狙い通りで、設定されたミッションを果たしたにすぎない。今後、同社は本ソフトを有効活用することで、もうワンステージ上の戦略構想も描いている。

興津氏：業務処理効率がアップし、そこに携わるマンパワーが軽減されたからこそ、チェック機能中心の管理的業務体制から、データをしっかりと分析して仮説や検証を行う、営業企画機能の強化を関連部署一体となって図っていきたいと考えています。

各種データを横串、あるいは縦串を刺しながら閲覧、加工できる「アイキューブ本家シリーズ」は、そうした多面的な見方と活用で、マーケティングや経営判断へのアクセスツールとしても有効だと捉えています。ペーパーレス性も高いため、現在では会議時にスライド共有することが定着しています。

現時点では、これまでとは違った「アイキューブ本家シリーズ」に合わせたモノの見方とビジネスフローが、導入から1年が経って出来上がってきたような気がします。アイキューブには、こうした分析・検証・仮説等の建設業界向けのマーケティング戦略に役立つコンサルティング情報の提供なども、今後期待したいところです。もちろん、ソフトそのものの機能強化、グラフィカルなデザインや視認性などユーザーインターフェースのさらなる向上を常に望みます。



User Profile

株式会社小田急ランドフローラ
住所●東京都世田谷区千歳台1-1-18
電話●03-5490-8757
<http://www.odakyu-landflora.co.jp/>

造園事業部長
興津幸宏 氏